

《リフォーム編》ビニールクロスの上から塗る 施工要領

※ビニールクロスの種類によっては施工できない場合があります。

塗る前に 表面の収縮がなく、吸水性のないビニールクロスに限り施工可能です。

水拭き 中性洗剤を水で薄めて水拭きし、クロス表面の汚れを落としてください。

ビニールクロスの一部がはがれている時は

クロスの貼付け補修

はがれている部分を市販のクロスのりを用いて補修してください。

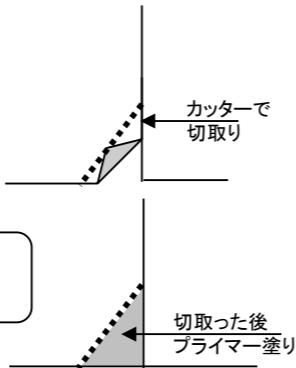
※タッカーで充分剥離がない様しっかり止めて下さい。
※錆の出ないピンを使用して下さい。

又は

クロスのカット

はがれている部分よりやや広めにクロスをカッターで切り取ってください。切り取った跡にクロスの裏紙が下地ボードに残っている場合は、裏紙もはがしてください。

切り取った後に、剥がれが進行しないか確認してください。簡単に剥がれが進行する場合は



プライマー塗布

切り取った部分にプライマーを浸み込ませるようにたっぷり塗り込んでください。そして乾かしてください。(この部分はつぎのプライマー塗布と合わせて2回塗布することになります)

プライマー塗布 クロス表面にプライマーを塗ってください。

(クロスを切り取った部分も含めローラーや刷毛で塗り残しのないよう塗ってください)

下塗り 塗ったプライマーが乾き始めてから(指でさわって、ベツキをわずかに感じる程度)「北のやすらぎスマイル」を塗り広げます。(下塗りの塗り厚0.75~1mm程度)

北のやすらぎスマイルを塗る

仕上塗り 下塗り表面が全面乾いた事を確認後、「北のやすらぎスマイル」で仕上げ塗りをしてください。乾燥時間は季節や天候(気温や湿度)により大幅に変わります。

(乾燥時間は時期による) (仕上げ塗りの塗り厚1.5~2mm程度で総厚2.5~3mm程度)

●気温が5℃以下になる場合(一日中)は、適切な保温対策を行ってから施工して下さい。

メンテナンスの方法について

- 欠け・キズ補修**
- ①表面の欠けた部分の塵を取り除き、スプレーで霧を吹きかけ水分を含ませます。
 - ②補修用に保管していたスマイルをふるって、粗いつぶを除いた粉末を水で練り、キズ面にヘラで押し塗ります。
 - ③乾いた布をあて、その上からヘラで軽くおさえます。時間経過とともに自然な色合いとなり、ほとんど気になりません。

施工中に発生したキズ補修の場合には、スプレーは不要。

汚れ補修 小さな汚れは、消しゴムで擦り落とし、その後スプレーで霧を吹きかけ、その部分に、補修用に保管していたスマイル硬化物をスライス、粉状にしたものをまぶします。この方法では無理な場合は、紙やすり、カッターなどで削り落としてから、欠け・キズ補修と同じ要領で補修することもできます。
大きな汚れは、一度サンダーで削り落としてから再度塗り直す必要があります。この場合は壁一面の塗り直しとしてください。

ひび割れ補修 ひび割れが発生する一番の原因は壁下地(躯体を含む)の変形にあります。その原因を取り除くことが、本来の補修であります。とりあえずの補修としては、その部分の塵を取り除き、欠け、キズ補修の要領で、ひび割れ部分に振った粉末スマイルを細筆やハケを用いて埋め込みます。その後スプレーで霧を吹きかけます。

広大な北の大地が育てた自然の贈り物 北海道稚内層珪藻頁岩入り塗り壁材



標準施工手順書

改訂/28.4

＜北のやすらぎの特長＞

- 「北のやすらぎスマイル」は他の珪藻土類の約3倍の吸・放湿性能(調湿性能)をもつ稚内珪藻土(正式名:北海道稚内層珪藻頁岩)を混入した塗り壁材です。
- 健康を配慮した自然循環型素材100%の材料です。樹脂系原料はいっさい使用していませんのでご安心ください。(但し、自然循環型素材の為、練り置きと練り返しを充分行う事によりスムーズに塗れます。)
- 「北のやすらぎスマイル」1つの材料で、下塗り・仕上塗りが出来ます。
- 練り置きが可能です。乾燥硬化型の材料ですので、乾燥しないよう密閉しておけば前日に練っておくことができます。また、施工時の余りを翌日に使用することもできます。
- 余った材料は、補修用として使用できます。粉材はビニル袋に入れ保存してください。練り残しの材料は適当な形に固め、押入れ・下駄箱などに保管すれば吸湿・除菌材として活用できます。但し、補修する場合は新しい材料に余った材料2割程度を入れご使用下さい。

使用材料

商品名	荷姿	1袋(箱、缶)あたりの施工面積の目安	備考(使い方)
北のやすらぎスマイル	20kg袋入り	2.5~3.0mm厚で10~12㎡(3~3.5坪)	下塗り、仕上塗り用。
	10kg袋入り	2.5~3.0mm厚で5~6㎡(1.5~1.75坪)	
ジョイントメッシュテープN (耐アルカリ対応・粘着タイプ)	100mm幅・100m巻	ボード継目の延べmから 割り出してください	下地処理用 (ジョイント、出・入隅の補強)
KYプライマー	18ℓ缶入り	約90㎡	下地処理用(石膏露出面、ベニヤ アク止めなど)
	5ℓ缶入り	約25㎡	
下地処理用(自然素材) パテ材	3kg袋入り	塗り㎡約13㎡/袋	下地処理用

日本システム機器株式会社

札幌市中央区北一条東8丁目1-3 片岡商事ビル
TEL(011)241-2631 FAX(011)241-3606

※ 樹脂やモルタル系と違い自然循環型素材の為、施工前には必ず弊社までご連絡下さい。技術担当者より施工方法についてご説明いたします。

<せっこうボード下地の場合>

標準施工マニュアル

練り混ぜ 1袋(20kg)あたり11～14%の水を使用します。水量は練り置き時間が少ない場合は11～12%を目安に下さい。
又、水量は乾燥時期によりかわります。(季節や天候(気温や湿度))
まず混練容器に計量水を11%を入れておく。(水を計量する時、2%、5%、10%等のジョッキを使用する事)ハンドミキサーを廻しながらスマイルを徐々に加えながら練る。練り上がりの状態を見ながら硬ければ、1Lずつ徐々に加水し、均一に充分混合した事を確認して下さい。

<注意> 練り方が足りないと、コテ塗り時に色のスジが出る場合があります。
練り置き 容器にフタをし、1時間以上練り置きます。

練り返し 前日に練って密封しておけば翌日すぐに仕事にかかれます。
練り置き後(塗る前)、よく練り返し、必要に応じて加水し、やわらかさを調整してから施工して下さい。

下地処理 ボード切断面の露出部、ジョイント部、出・入隅部など割れが生じやすい部分を補強処理します。補強処理は100mm幅のジョイントメッシュテープN(粘着タイプ)、専用パテ材を使用します。
ペニヤ下地がある場合は次ページ「その他の下地」を参照ください。

下地処理専用パテ材 弊社専用パテ材又は一般のジョイント処理用パテ材(石膏系又はセメント系のパテ材)

ボードの石膏が露出している部分の処理
出隅部など石膏が露出している部分に吸水止め・乾燥亀裂防止の為KYプライマーをたっぷり塗りこんでください。

ボードのジョイント部の継目の溝 隙間などの処理
① ジョイント部の継目の溝、隙間、釘頭の凹み部分に専用パテ材を埋め込んで、コテでしごいてください。(※北のやすらぎ施工の注意点5.<ジョイント処理及びビス頭埋め>を参照)

ジョイント処理
② ジョイントメッシュテープN(粘着タイプ)をジョイント部にたるみのないように貼り付け、コテで押えてください。
③ ジョイントメッシュテープNの上から専用パテ材を塗り、テープの裏に空気層を作らぬように入念にコテでしごいて左右に塗り広げます(厚さ0.5～1.0mm、幅100mm以上)

出・入隅処理 (糸面コーナー鏝の使用をおすすめします)
② ジョイントメッシュテープN(粘着タイプ)を出隅および入隅部に、たるみのないように貼り付け、コテで押えてください。入隅部については、ジョイントメッシュテープNを左右均等に貼るよう入念に行なって下さい。
③ ジョイントメッシュテープNの上から専用パテ材を塗り、テープの裏に空気層を作らぬように入念にコテでしごいて左右に塗り広げます。(厚さ0.5～1.0mm、片幅50mm以上) (※北のやすらぎ施工の注意点乾き状態確認 6.<入隅処理>7.<出墨プライマー処理>を参照)

下地処理した部分のジョイントメッシュテープNが専用パテ材で固定されたことを確認してから次の作業を開始して下さい。
※完全に乾いてから下塗りをしなければ亀裂、テカリ、色違いの原因となります。
※基本はパテ材が完全乾燥後、下地全面にKYプライマーを塗布します。

下塗り ④ 下地処理した部分と一般面を合わせて下塗りして下さい。(塗り厚1.5～2.0mm程度)
※注意※ パテ処理部分に、北のやすらぎを厚み1～1.5mm程度均一に塗って下さい。その後パテ処理部分の厚さに合わせ平滑に全面に北のやすらぎを塗って下さい。薄塗りした場合色違いや仕上げ後表面にテカリが出る場合があります。ご注意ください。

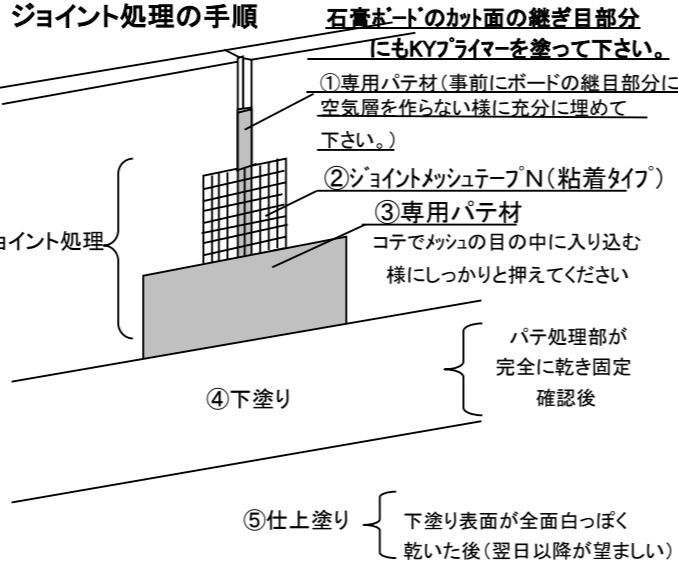
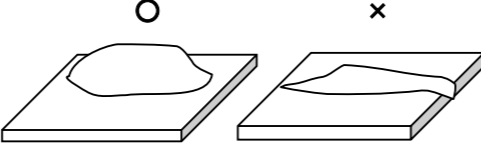
乾き状態確認 下塗り表面が全面白っぽく乾いた後(翌日以降)に仕上げ塗り作業を開始して下さい。(パテ処理部分、釘頭部分の乾燥後)乾燥時間は季節や天候(気温や湿度)により大幅に変わります。
下塗り終了後全面白く乾燥してから仕上げ処理します。(乾燥時間は時期による)
●気温が5℃以下になる場合(一日中)は、適切な保温対策を行ってから施工して下さい。(特に冬期間の温度管理をしっかり行って下さい。)

仕上げ塗り ⑤ 下塗りの上から、さらに1.0～1.5mm厚程度の塗り厚で仕上げ塗ります。(塗り厚は、ローラー仕上げ、カネベラ仕上げ等、使用工具により異なります。)(総塗り厚2.5～3mm程度)

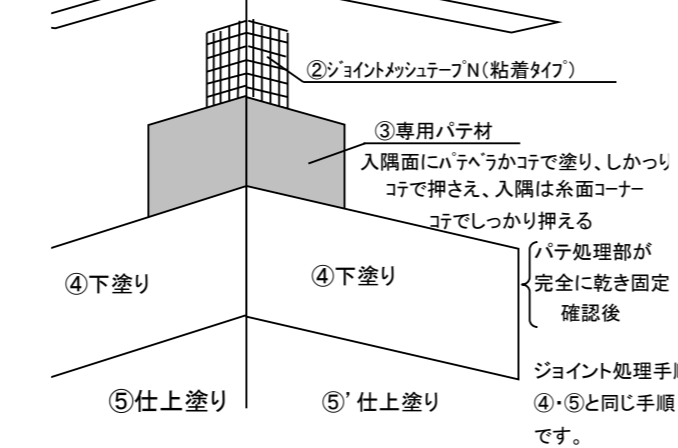
●気温が5℃以下になる場合(一日中)は、適切な保温対策を行ってから施工して下さい。(特に冬期間の温度管理をしっかり行って下さい。)
※注意※ ①表面仕上げ後にコテに水を付けてこすると色違いとなります。表面が少し乾いた状態でコテでこすると表面が黒ずむこととなります。ご注意ください。

<練り具合(やわらかさ)の目安>

パテ板に練りあがったスマイルを載せ、形がわずかにくずれ程度で、パテ板を垂直に立てても垂れ落ちない程度。※必ず11～14%の水量を使用の(割れ、テカリ、色違いの原因になります。)



入隅処理(出隅処理も同じ要領)の手順
※ボードによってジョイント処理手順の①と同じ処理をしてください。



仕上げ塗りは⑤、⑤'を同時に行なわず、片面⑤が乾燥した後にもう一方の面⑤'を施工して下さい。
※入隅での仕上げ塗りの塗り厚はあまり厚く塗らない様にして下さい。両面での収縮による亀裂の原因となる事が考えられます。ご注意ください。

※入・出隅の裏当ての木下地はしっかりと角材を使用する。(柄付け)

仕上げ塗り表面ににじみ出た水分の光が消えかけた状態になり、かつ柔らかい状態で、柄付け作業を行なってください。

- ②北のやすらぎのカラーバリエーションのうち濃い色を使用して塗る場合は練り具合は固めにしてください。1袋(20kg)あたり11～12%の水量を使用し、練り置きを(前日)充分にしよく練り返しを行って下さい(3回程度)。仕上げ塗り金鏝押しは1回でおさめる様にして下さい。金鏝で押える程、水分が表面に引き上げられ色が出なく白く、色抜けした状態で仕上がりますので、水量と金鏝の押し過ぎに注意して下さい。
- ③色の着色剤には、無機顔料を使用しています。水量が多いと、表面に水分が多く含む為、色抜けや色違いの原因となります。(※特に下塗りが完全に乾いていない状態で仕上げ塗りをした場合や低温での乾燥は発生しやすくなります。)
- ④冬期間の(特に夜間での)室内温度は高くし、乾燥をはやめる様に対策を行ってください。

<その他の下地の場合>

- ペニヤ系(木部全般)下地の場合**
- ①初めにアク止め防止の為、木部全面にKYプライマーを刷毛及びローラーで1回塗る。完全に乾燥してから専用パテ材で、ジョイント処理、出・入隅処理を行う。
 - ②アクによる色ムラ防止の為、再度KYプライマーを1回塗り、直ちに北のやすらぎを1回捨て塗り後、アクによる色ムラを確認する。アクによる色ムラが発生している部分だけアクによる色ムラが出なくなるまで、北のやすらぎを部分しごき塗りし、乾燥しては塗り、乾燥しては塗りと繰り返して完全にアクによる色ムラが出なくなるのを確認する。
 - ③確認後下塗りをする。下塗りが全体に白く乾燥してから仕上げ塗りをして下さい。

モルタル系下地の場合 白華状態での色ムラ防止のため、KYプライマーを2回塗り(1回目が乾いてから2回目を塗る)して下さい。あとは、下塗り、仕上げ塗り、を実施して下さい。

注意事項 ■入隅に発生しやすいヘアークラックを防止するために
スマイルは、一切の樹脂系化学物質を含まない自然循環型素材のため、入隅部の左右壁面の水引現象(やせ)によりヘアークラックが発生しやすくなります。又、ボードとボードの継目に空気層を作らない様にパテ材で充分練り込んで下さい。
仕上げ塗りは、片面をまず仕上げ、乾燥硬化した後、他の片面を被せるように仕上げてください。
仕上げ塗りの塗り厚はあまり厚く塗らない様にして下さい。
・木部との取り合い部がある場合、塗り厚2.5～3mm厚の分を残しマスキングテープで木部に張りつけます。木部の2.5～3mm部に吸水止めシーラーを塗り、北のやすらぎの吸い込みを防いでください。(乾燥後の亀裂防止のため)

■より良い塗り壁下地とするための下地ボードの施工方法について

【下地ボードの割付】
●水平のジョイント部ができないように、長尺サイズのボードを使い、小片の切り張りは避けてください。
●開口部の四隅はひび割れが発生しやすい場所です。四隅には、ジョイント部を配置しないよう、右図のような割付けとしてください。

【下地ボードの取付】
●ビス・釘留め間隔を右表程度とし、隙間のない、動かない下地を作ってください。不十分であれば手直ししてください。
●ボンド直張り工法の場合は、ジョイント部の裏側に必ずボンドを配置することを厳守してください。

【下地ボードの補修・処理】
●欠け、隙間がある場合は張り直すか、または事前に専用パテで穴埋めなどの補修をしてください。
●出隅や横ジョイントなど、せっこうボードのカット面が露出している部分は、吸水止めの為プライマーをたっぷり塗布してください。

■下地ボードで施工出来ないボードもありますのでご注意ください。*特にGL工法で取り付けした石膏ボードや軽量鉄骨下地でのボード、構造用合板等での施工は必ず一度ご相談ください。(原則的に揺れのある構造体はさけてください。)

■塗り方について

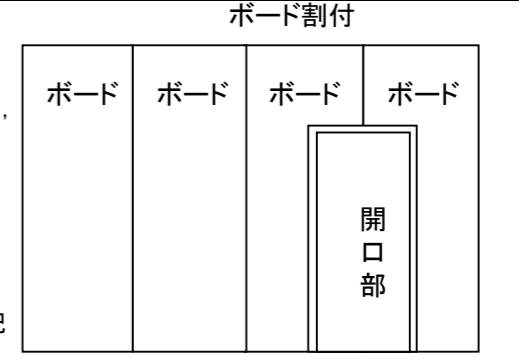
- 下地処理や仕上げ処理は、塗り面単位で施工して下さい。
- 仕上げ方法はコテの種類によって異なりますが、押さえる場合は一度だけにして下さい。何度もコテで押えると、色むらや表面が黒ずんできますので、ご注意ください。

<リフォームの場合>

クロス仕上げの場合 原則として、紙、布、ビニルクロス等を裏紙まで残らず剥がして下さい。剥がした後の下地にプライマーを全面塗布して下さい。(プライマー塗布後下地の紙がふくれているところをカッターで、えぐり取り、その部分に再度プライマーを塗ってから全体に北のやすらぎを下塗りする。)下地がボード類の場合は必ずジョイント処理をしてください。
クロスの上から塗る場合は次ページをご覧ください。

<リフォームの場合>

繊維壁・じゅらく・漆喰壁等の上から塗る場合 基本的には剥しますが、上から塗る場合は剥れ易い部分を除去し、上からプライマーを充分塗布してから剥離のない状態を確認後、仕上げ塗りをして下さい。



※ボードビスの間隔※

	部 位	周 辺 部	中間部
木造下地	天 井	90mm	120mm
	壁	100mm	150mm
鋼製下地	天 井	150mm	200mm
	壁	200mm	300mm

■その他の注意事項

- 気温が5℃以下になる場合は、適切な保温対策を行ってから施工して下さい。表面が白華状態や乾きムラによる色合いとなります。
- 直射日光、通風や温風などの急激乾燥につながる環境の場合は養生シートをかける等の対策を講じてください。
- 練り置きした材料が残った場合は、補修用に保管しておいてください。捨てる場合は、産業廃棄物となります。
- 表面を押える時コテに水をつけて行うと色ムラになります。霧吹き等で水を表面にかけて押えると同様な状態になります。